

静岡県漁業協同組合連合会

1140静岡市葵区追手町 9-18
17. 4. 22 ☎054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 平成17年度水産事業説明会開催される

県農業水産部水産総室では、去る4月19日県男女共同参画センターあざれあにおいて、「平成17年度水産事業説明会」を各漁協組合長、水産関係団体、市町村担当者等約100名が出席して開催しました。

説明会では始に、竹内水産総室長より県水産業の現状について県水産基本政策プログラムを基に 消費者の求める水産物の生産・供給 「海の恵み」の持続的利用 魅力ある漁村づくりを目指した豊かで活力ある「浜」づくりをベースに、17年度県水産予算の概要説明が行なわれました。引き続き水産総室の各室長並びに水産試験場長より、それぞれのセクションの事業説明が行なわれました。

17年度農業水産部全体の当初予算は、50,141百万円(16年度当初予算に対して4,027百万円・7.4%減)で、新規事業は 水産王国しずおか首都圏トップセールス事業 公募競争型資金による水産関係試験研究高度化促進事業 水産試験場浜名湖分場体験学習施設運営 水産業経営体セーフティーネット構築費助成が入りました。

また本会関係の新規事業としては、漁村体験を中心とした体験活動を行う、しずおかの漁業交流活性化事業があります。

2. 県産水産物PR 水産王国しずおか首都圏トップセールス事業

本会では、海の子フェスタ事業の後継として県の補助を受けて漁業経営の安定を図るためには、水産物の価格を積極的に高めていくことが必要であり、主要な消費地である首都圏において本県漁業をPRするため、東京で首都圏の水産関係者、流通業者、マスコミ及び旅行業者を招き、伊豆地域から浜名湖に亘る本県全域の漁協及び水産関係企業が参加して、「水産王国しずおかシーフードフェア」を開催し知事によるトップセールスを計画しています。

なお、本事業の推進にあたり漁業関係者が参加する実行委員会を組織し、意見を聞きながら事業の構築を考えています。本会では昨年11月に県の委託を受け水産王国しずおか首都圏PR事業を県内漁協及び水産関係企業に参加いただき都内で開催し、都内の流通業者ら約200人が来場する中で、新たな取引が成立するなど県産水産物の販路拡大の足がかりを作りました。

東京など消費市場での県内水産物の取扱高(2002年)は、数量が前年比5.1%減の94,000ト、金額が3.9%減の729億円とここ数年伸び悩んでいることから、本県水産物のPR、販路拡大が重要となっています。

水産王国しずおかシーフードフェア

開催時期：平成17年10～11月 会場：都内ホテル 実施方法：実行委員会方式

内容： 知事による水産物の売り込み 県内水産物の試食をかねたレセプション
商談コーナーでの商取引 事業費：5,500千円(県負担1/2 2,750千円)

3. 松崎町の海岸でヒジキ刈りが最盛期

良質なヒジキが採れる松崎町岩地地区で、ヒジキ刈りが最盛期を迎えています。

松崎町漁協の岩地地区の組合員ら約70名が、漁船に乗って外磯の海岸の岩場に上陸し、黄褐色のヒジキをカマで刈り取り収穫をしています。今期のヒジキの生育は、海水温が低く推移したことにより、成長、品質が良く4月12日には約7トが収穫され、袋に詰めて港まで運び水洗いをして、煮込んだ後、天日干しして乾燥させます。

収穫したヒジキのほとんどは地元民宿の宿泊客用や、料理店で使用されます。

4. ウナギ・イセエビ種苗生産技術の開発に取り組む

(独)水産総合研究センターでは、平成17年度より4カ年で天然種苗に頼るウナギ・イセエビの人工的な種苗生産技術を確立する開発に取り組めます。

ウナギやイセエビは200～300日以上に及ぶ幼生の期間があり、概してこの期間が長いほど種苗生産は困難です。わが国ではウナギやイセエビの幼生飼育システムの開発に相次いで成功したことにより、種苗生産実現の可能性は格段に向上しましたが、安定的な種苗生産を実現するためには、長い幼生の飼育期間中の極めて低い生存率の問題等を解決しなければなりません。

このプロジェクト研究は、ウナギやイセエビの幼生の生存率を現在の10倍程度に向上させ、安定した種苗生産に目処をつけることを目的としています。そのための研究項目として、質の高い親魚を養成する技術や飼育環境、仔稚魚に必要な栄養生態の解明を計画しています。

5. 新刊図書紹介 「お魚びっくり箱」 園久美子著

小田原の飲食店で友人が注文したキンメダイに興味をもったのをきっかけに魚に興味をもち、様々な人々との交流体験を主婦の園久美子さんが綴った魚の体験談「お魚びっくり箱」が緑書房から発刊されました。

月間「養殖」で15年4月から1年間連載した「そのくみの一魚一会」の全12回分と、書き下ろしのエッセイを収録した「お魚びっくり箱」は、魚を食材としか認識しておらず、サバフグやホウボウがどんな魚なのかも知らなかった主婦が、水産業界の人々と交流するようになって、築地市場を探検したり、各地の生産者を訪問するなどといった経験を紹介した斬新な一冊です。また、新たに加えられた書下ろしエッセイでは、築地市場探検 自宅でシラスウナギの飼育 ウロコのコサージュづくりなど、魚への疑問と好奇心から、筆者が体験した魚に関することまで、詳細かつ親しみやすく紹介しています。一般の人には日本の水産業界のことを分かりやすく、水産業に従事している人には消費者の反応や考え方を理解するうえで貴重な一冊となっています。

価格：1,260円(税込) 問合せ先：緑書房 = TEL03-5281-0171

6. 諸会議日程(4月26日(火)～5月9日(月))

- 既報分省略 -

4月26日(火) 県漁業振興基金 = 伊豆地域栽培漁業東岸地区協議会 (網代港漁協)

4月27日(水) " = 伊豆地域栽培漁業西岸地区協議会 (内浦漁協)

4月28日(木) 県漁業共済組合 = 県漁業共済事業推進協議会

委員・幹事合同会議 (県水産会館)